

黄 烏 瓜

梅津純子

朝の戸を開くれば白き糸の花南天の上に蔓伸ばし咲く

隣家との境の塀を這ひ上り真白きレースの花いくつ咲く

「からすうり 熟れて真っ赤な」歌ひしに秋ごと熟るるその実は黄色

烏瓜の歌をさがせば赤き実を称へ黄の実を詠ふはあらず

紫も白花もあるホタルブクロ烏瓜にも黄の実もあらむ

亡き父の牧野植物大図鑑久々に引く朝ドラの後

赤き実を見ぬも道理か花も葉も此は似て非なる黄烏瓜ぞ

赤き実の成らずともよし汗知らず「天花粉」は黄烏瓜の根

懐かしき響きのかへる「天花粉」幼子われらの肌守りくれし

雌雄異株なればレースの白き花黄熟の実を結ぶことありや